

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)									
指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト						法人番号	6100005002075		
所管課	主	117000	保育・幼稚園課		副					
構成施設	3091	もんぜんぷら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
施設分類	06	保健福祉2型			施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、お昼寝室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ(車いす対応)、受付、事務室									
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進を資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。									
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。									
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧ホームスタート事業 ⑨利用者支援事業 ⑩その他子育て支援に関すること									

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名		特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト			当該指定管理者の 指定回数	4 回
指定期間		令和4年4月1日 ~ 令和9年3月31日 5年			当該指定管理者の 管理運営開始日	平成18年4月1日
指定 管理 者の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価 4
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)	(特記事項)				

2 施設の有効活用

No. 23

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)		利用区分等	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	対前年比	評価
		利用者数	人	17,412	23,819	40,912	40,741	100%	
		(内 出張広場参加者)	人	325	572	798	770	96%	
		新規登録乳児数	人	673	737	1,736	1,539	89%	
		専門家相談人数	人	310	321	363	423	117%	
		子育てコンシェルジュ相談数	件	3,483	3,299	2,867	2,295	80%	
		ホームスタート訪問家庭数	人	59	96	95	90	95%	
(特記事項) ・新規登録乳幼児数の低下は、令和6年の出生率が過去最低であったことが影響していると考えられる。 ・専門家相談件数が前年度に比べ増加している。歯科相談や栄養相談など、身近で専門家に相談できる利点が周知されてきているためと考えられる。									
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
	市指定事業	① 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ② 子育てに関する相談 ③ 子育てグループ等の育成、 ④ 子育てに関する情報の提供 ⑤ あそびに関する指導及び助言 ⑥ 子育て情報誌の発行 ⑦ 子育て講座、イベントの開催 ⑧ ホームスタート事業 ⑨ 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ) ⑩ その他子育て支援に関すること			・ホームスタート10周年記念事業 記念式典 講演会(公開講座)「子どもの発達を支える遊びのチカラ」 講師：荻上健治(竹重病院 作業療法士) ・出張子育てコンシェルジュの実施 出張広場やながのこども館「森のたんけんひろば」にコンシェルジュが出向き、相談を受けた。				
	自主事業	・講座の開催 ①ながのわくわくパパ講座 ②休日マタニティセミナー ③ノーバディズパーフェクト講座 ・地域と連携した広場の開催 ①ゆりかごの会 ②サンサン広場(権堂イーストラザ) ③アップルキッズ(浅川社会福祉協議会) ④あそびましよう(東部保健センター 月2回) ・スタッフ研修			・がらくた座公演 人形劇と紙芝居と語りの会 「ちいおばさんからの命のメッセージ」				
サービス維持・ 向上の取組み (広報等)		・広場から遠い地域や多胎児等で来館しづらい保護者の要望に応え出張広場を開催している。そこへ子育てコンシェルジュを派遣し、気軽に子育ての悩みなどを相談できるように体制を整えた。 ・常にホームページを更新し、ブログ等で最新情報を掲載することで情報発信に努めた。また、週刊ながのの「子どもも親もいきいきと」のコーナーを担当し、子育て支援の情報を月1回掲載した。							

3 利用者評価

区分		内容		評価
利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート		4
	(2) 調査、会議等の内容 ・利用者アンケートを実施し、利用者の声を聴いた。アンケート内容に子育てひろば全国連絡協議会が実施しているアンケート項目を加えた。(対象:100件) ・講座等アンケート:各講座終了時にアンケート調査、更に一人ひとりから感想や要望等の聞き取り(散髪講座・パパ講座等) ・ホームスタート事業利用者アンケート:利用の前にモニタリングを実施しニーズを調査。活動終了後にエバリュエーションし、充足度を確認。(調査対象家庭数61家庭) ・日頃から、スタッフが利用者と話をすることで、感想や要望を直接聞き取っている。 ・施設内に「利用者の声コーナー(投書箱)」設置し、利用者の声を把握するようにした。			
利用者評価	(3) 調査、会議等の結果	【こども広場】 ・アンケートの結果は広場内に掲示。更に情報誌等に掲載し、周知。 ・講座等のアンケート結果は、子育ての様子等が分かるとともに、要望を把握し、次回の講座運営に生かした。 【ホームスタート・講座等】 ・運営の参考や講座のニーズの参考として利用		4
	(1) 良好とする評価	【こども広場】 ・利用者アンケートでは、日ごろの活動や様子について、ほぼすべての項目で90%以上が良いと応えている。 ・散髪講座のアンケートでは、参加者の100%が満足・やや満足だった。実際に体験できることが満足感につながった。 ・パパ講座Zoom開催は、パパ同士が本音で子育てを語れる場として、満足度100%。リアル開催3回(公園遊び、焼き芋大会、雪遊び)でも普段できない体験ができた満足度100%だった。 【ホームスタート】 ・ニーズの充足率は97%に上った。1番多いニーズは、「孤立感の解消」で事後評価での充足率は100%だった。 ・産前家庭のニーズでは通常と同じく「孤立感の解消」と、同率で「家事の上達」が1位だった。事後評価で充足率100%だった。		
	(2) 苦情・改善等の要望事項	・もんぜんぶら座がなくなると聞いていますが、是非こども広場は残してもらいたい。 ・駐車料金について…無料、2時間無料、もう少し安くなどの要望。 ・混んでいて、人数制限してほしいと感じるときがある。 ・兄弟やふたごを連れての来館時に、少し手伝ってもらえれば助かります。		
利用者からの評価・要望・苦情等	《対応措置》	・例年のアンケートと比較して、駐車料金への要望が多かった。景気の悪さが子育て世代の家計を圧迫しているのか、駐車料金が利用のネックになっているようだ。 ・平日より土日に来館者が多く、利用することの年齢も高くなることから、小さい子どもを持つ保護者が、特に危険を感じるようだ。混雑時にはスタッフがより注意を払い、ケガの無いように見守りを強化したい。 ・複数の子どもを連れての来館は、保護者の様子を見て、手助けをしている所だが、さらに声がけ等気配りをしていきたい。		

4 事業収支

No. 23

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和6年度)				市の収支				評価		
		年度計画額		収支実績額			令和6年度決算			令和5年度決算(前年度)	
		項目	金額	項目	金額		項目	金額		項目	金額
	収入	利用料金		利用料金		歳入	使用料			使用料	
		指定管理料	28,571,000	指定管理料	28,571,000		雑(納付金)			雑(納付金)	
		委託料	385,000	委託料	401,034		行政財産目的外使用料			行政財産目的外使用料	
		販売収入等		販売収入等			貸付料			貸付料	
		その他収入	100,000	その他収入	78,918		その他	11,790,000		その他	11,510,000
		講座参加費	80,000	講座参加費	67,000						
		広告料	150,000	広告料	76,000						
計	29,286,000	計	29,193,952	計	11,790,000	計	11,510,000				
支出	人件費	20,929,000	人件費	21,224,453	歳出	指定管理料	28,571,000	指定管理料	28,379,000		
	設備管理費	100,000	設備管理費	0		委託料		委託料			
	備品購入費	300,000	備品購入費	910,500		需用費		需用費			
	修繕費	300,000	修繕費			役務費		役務費			
	光熱水費		光熱水費			使用料・賃借料	455,588	使用料・賃借料	459,842		
	事業費	4,690,000	事業費	3,773,425		修繕費		修繕費			
	事務経費	967,000	事務経費	855,176		工事請負費		工事請負費			
本社経費	700,000	本社経費	700,000	備品購入費		備品購入費					
その他	1,300,000	その他	1,344,500	その他		その他					
計	29,286,000	計	28,808,054	計	29,026,588	計	28,838,842				
自主事業	収入		収入								
	支出		支出								
	自主事業損益	0	自主事業損益	0							
損益	0		385,898		差引	-17,236,588		-17,328,842			
人件費比率【人件費(賃金等)／令和6年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)									73.7%		
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由											

5 管理運営全般 ※ すべて ☒ で、「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分		確認内容	チェック欄	評価	
管理運営全般	職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	☒	4	
		配置実績 (うち市内雇用職員数)			運営責任者1人(1)、副責任者2人(2)、チーフスタッフ3人(3)、スタッフ12人(12)、コンサルタント1人(1) 合計 19人(19人)
		2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか			
		3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか			
		4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか			
	平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	☒		
		2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか			
	経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いが適切に行われたか	☒		
		2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか			
	施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか	☒		
2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか					
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	☒			
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか				

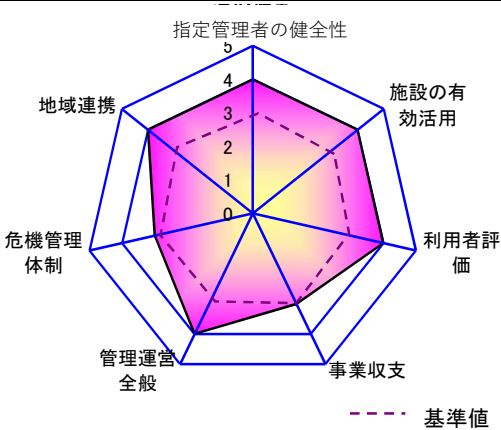
危機管理体制	区分	確認内容	チェック欄	評価
	安全対策	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☒	3
		2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか		
		3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☒	
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	☒	
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
	緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☒	
		2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		

7 地域連携

地域連携	地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。		評価
	協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	4
	・地元商店街主催行事や地元NPO等の行事等への積極的参加(権堂七夕まつり、ゆめ灯り絵展、地域まるごとキャンパス等) 地元事業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座 ハンドマッサージ等) ・地域のシニア層との交流(折り紙教室 等) ・教育機関との連携事業(長野県立大学、清泉女学院大学・短大、中学校、高等学校、長野看護専門学校) ・地元商店街からの物品購入 ・スタッフは全て市内雇用	・長野市緊急時における子ども支援ネットワークの一員として、平時から緊急時まで、子ども達をめぐる環境が整備される様、検討。多様なニーズを持つ子ども達への関りについて研修会等に参加し、知識の習得に努めた。 ・長野図書館主催の「読書感想画展」に参加。親子で絵本に親しみ、それを絵として表現し楽しむ姿があった。 ・子ども子育てフェスティバルに出展し、子育てを応援している広場を活動を通して周知した。	

【総合評価】

【総合評価】

総合評価	評価項目	評価	得点	総合評価	
	指定管理者の健全性	4	8	合計得点	
	施設の有効活用	4	16		
	利用者評価	4	16		
	事業収支	3	6		
	管理運営全般	4	8		
	危機管理体制	3	12		
	地域連携	4	8		
	74				

評価理由

・「施設の有効性」について、専門家相談の件数が増えていること、他施設へ子育てコンシェルジュを派遣し、来館できない人への支援も行っていることから「4」とした。

・「利用者評価」について、利用者アンケートに広場の活動や様子についての項目を新たに追加し実施していることや、高い満足度を得ていることから「4」とした。

・「管理運営全般」について、高い専門性を備えた職員を多く配置し、利用者に寄り添った対応ができている点、また常に衛生管理に細心の注意を払い、来館者が安心・安全に利用できるよう館内の清掃等適切に実施されている点から「4」とした。

・「地域連携」について、スタッフは全て市内雇用、地域主催の行事等への積極的な参加、地域事業者や教育機関との協働・連携により地域を盛り上げ、貢献できた点から「4」とした。

取組み・改善案等 (施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
	・より親しみやすいこども広場として多くの親子に利用してもらうための体制づくりやイベント等を計画していく。 ・こども広場が身近な相談場所として、子育てコンシェルジュ等スタッフがより自覚を持ち専門性を発揮していく ・土日祝日を中心に働く保護者と子どものための支援をより充実させていく。	・子育て講座やイベントを、多岐にわたる内容で行い、来館者数を維持できた。 ・専門家相談の件数が増え、こども広場が身近な相談場所として認識されてきた。 ・平日より土日の利用者の割合が多く、働く保護者と子どもの支援ができている。	
次年度の目標・取組み等 (施設所管課)	・新規登録乳幼児数を増やし、子育て家庭の孤立防止を図る。 ・保育・幼稚園課及び保育コーディネーターとの連携を強化し、制度の最新情報を共有することで子育てコンシェルジュ等の専門性を高める。 ・土日の混雑時の安全対策を図る。		

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

◎多機能化の充実

・ホームスタート、利用者支援事業、更に委託事業のファミリー・サポート・センターが併設されていることから、ここに来れば様々なサポートが受けられるとの認識が高まってきている。広場の新規登録と同時に、ホームスタートやファミリー・サポートの登録や説明を求める来館者が多く、利用につながっている。ファミリー・サポートでは、広場で預かってもらえると安心との声も多い。

・子育てコンシェルジュを出張広場やながのこども館へ派遣したことから、広場と同じような身近な場所で気軽に相談できる場を提供することができた。また、まだ広場にきたことのない親子にはじゃん・けん・ぼんを紹介し、利用につなげた。

・リユースマーケットを子ども服中心に毎月末1週間程度実施。こどもがすぐ大きくなるので助かるとの声多数。育児用品やおもちゃ、絵本などを希望する声もあるので、権堂イーストプラザと連携して春秋2回「まちなかりユースマーケット」を権堂イーストプラザを会場に開催した。各回100名以上が来場。

◎子育て支援

・6か月までの親子向け「ねんねの会」では、スタッフの看護師が子育てワンポイントアドバイスを行った。看護師目線のアドバイスが日頃の子育てに参考になると好評。また、読書アドバイザーのスタッフが「おひざで絵本事業」での選書の参考となるよう案内をし、親子で読み聞かせが楽しくできるようにサポートをしている。

・共働きの親子に向けての支援として、土日に子育て講座等を開催。自発的に子育てに関わるパパ達の「ながのわくわくパパ講座～パパ講座スペシャル パパと遊ぼう！～」を土曜日の午前中に開催。パパ実行委員が中心になってパパと子ども達でダイナミックに室内遊びを行い、普段子どもと関わる機会が少ないパパに好評だった。また、「親子で絵本タイム」を月1回土曜日に開催し、子育てを楽しむツールとしての絵本の提案などを行い、興味・関心に応じて「遊びと体験」につながるよう支援した。

・子育てに不安や負担感を感じている保護者には子育てコンシェルジュが相談にあたっている。相談している間スタッフが子どもを見守っていることで、じっくり相談することができ、利用者の大きな安心感につながっている。

② 業務の効率化に対する取組み

・cybouzを導入し、業務日誌を移行したことにより、来館人数集計等が簡略化され、業務の効率化ができた。

・休日マタニティセミナーは、本年度より地域の助産所と北信助産師会の助産師と連携し実施したことでよりスムーズなセミナー運営をすることができた。助産師を3人に増やしたことで、体験実習等で手厚く対応することができ、参加者の満足感がより向上した。参加者同士も他の夫婦と交流することができ好評だった。産前から広場の様子を見ることにより出産後、気軽に広場を利用することにつながっている。

・はじめの100か月の育ちのビジョンに基づき妊娠期から幼児まで途切れない支援ができていく。マタニティセミナー～ねんねの会～0歳児の会等年齢別のおしゃべり会を開催し、それぞれの月齢に合わせた支援を行っている。保護者とともにこどもの誕生前から幼児期までの成長を見守り、ともに成長を喜び、子育てを楽しんでいることができるような支援を行っている。家庭ではできない豊かな遊びと体験を提供し、身近な存在であるスタッフが寄り添うことで、こどもの将来にわたるウェルビーイングの土台が築けるように支援している。子育ての見通しが持てるように支援を体系化し、業務の効率化を図った。

・子育てコンシェルジュの相談も多岐にわたり、様々な専門機関へつなげていく必要も出てきている。他の支援機関との連携を深め、より親子に寄り添った支援になるよう努めている。特に地域の保健センターの母子保健コーディネーターとも連携が取れるようになってきており、親子支援につながっている。

③ その他

・こども広場の持つ特性を活用し「休日マタニティセミナー」「多胎児育児相談事業」等長野市との協働事業、「長野市キャリア教育推進事業赤ちゃんだっこ」を教育委員会より受託。広場利用者親子のみならず妊産婦家族、中学生、多胎児の家族等地域住民への支援ができ、より有効な事業とすることが出来た。

・長野市緊急時における災害支援ネットワークに事務局として参画し「長野市緊急時の子ども支援ガイドライン」が完成した。様々な団体と連携が持て緊急時に役立つネットワークが形成されている。また、ネットワークと共催で、防災講座を開催し、2019年19号台風災害に被災したママに当時の体験を聞き、いざという時に子育て家庭が困らない準備等について知ることができ、知識を深めることができた。

・長野駅前前の殺傷事件では、現場から広場が近いこともあり、スタッフ一同「防犯に関しての申し合わせ事項」を熟読し、いざという時の対応を再確認した。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

・こども・子育てにやさしい広場を目指す。

働くママがリラックスできる広場となるよう工夫する。スタッフとの会話や子育てコンシェルジュに相談するなど、ちょっとした会話で日頃の子育ての大変さをスタッフと共有することでリフレッシュできるようにサポートする。子育て支援者としてスタッフも保護者が子育てが楽しくなるように子育ての伴走者として応援する。

・衛生管理

コロナ禍以降、様々な感染症が流行しているため、常に環境整備に努め、安心してゆっくり遊べるよう、おもちゃの消毒等を日常的に実施する。

・施設等の経年劣化

床のささくれが大変気になってきている。おもちゃも木製が多いため、日ごろから危険な箇所がないか「安全チェックリスト」を活用して注意する。

(3) 総合評価

評価基準

【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

・毎日、11:10～、14:30～の2回、「来館者向けのお楽しみの時間」をスタッフが親子と歌や手遊び、体遊びなどを一緒に行っている。子どもの育ちに合わせた内容で、季節感を大切に家庭へ帰ってもこどもとのふれ合いに役立ててもらえるよう工夫している。また、伝承あそびやわらべうたなど昔から受け継がれてきている遊び等も織り交ぜ、ニーズにも応えながら多様な遊びや体験の場を提供している。

・子育ての孤立感や負担感を軽減する役割を果たし、地域の子育て力を向上させるために、支え合いの仕組みを構築している。育児に関する情報提供や「先生おしえて」など講習会の開催、「年齢別おしゃべり会」などで親子の交流促進などを行い、地域全体で子育てを支える環境づくりを目指している。特に、核家族化や地域のつながりの希薄化が進む中、子育て家庭にとって支えとなるよう努めている。こどもが多様な大人やこども同士関わる機会を増やし、こどものウェルビーイングを促す場としても重要な施設となっている。

・もんぜんぶら座3階にある国際交流コーナーや長野県多文化共生相談センター等の利用者が広場に助けを求めることがあり、ホームスタートやファミリー・サポート・センターの利用につながることがあった。他施設とも連携し、在住外国人親子にも開かれた施設になるよう工夫した。

② 次年度以降の取組み

・「こどもまんなか応援サポーター」に参加する

こどもまんなかアクションを検討実行し、FacebookやInstagram等のSNSを利用し、情報発信する。アクションを起こすことで、こどもにやさしい施設としてアピールする。

・パパ講座の充実

育児中のパパの来館が増えてきていることから、パパ講座の広報を積極的に展開し、主体的に子育てに関わるパパを応援する。リアル開催は、ほぼ土日開催であることから、たくさん親子に参加してもらえるように企画段階から実行委員と検討し、実施していく。

・土日開催の講座等の拡充

共働き家庭が増えてきているに伴い、土日等休日には家族そろって来館する親子が増えてきている。そこで、パパにはこどもと一緒に「こども支援講座」を、ママには1人で「リラックスタイム」となるような講座の同時開催を計画する。